

航路に関する地区住民等の意向調査結果

目 次

１． 航路に関する地区住民等の意向調査結果	1
１－１． 地島島民に対するアンケート調査	1
１－２． 大島島民に対するアンケート調査	16
１－３． 島外からの地島航路利用者のアンケート調査	20

1. 航路に関する地区住民等の意向調査結果

航路改善計画の策定にあたって、島民や島外からの航路利用者の利用実態や利用者からみた課題・要望などを把握するために、次のアンケート調査等を実施した。

- ①地島島民に対するアンケート調査
- ②大島島民に対するアンケート調査
- ③島外からの地島航路利用者に対するアンケート調査

1－1. 地島島民に対するアンケート調査

(1) アンケート調査の概要

①調査の実施方法

項 目	概 要
調査方法	隣組長さんのご協力により、調査票を対象人数配布し、一定期間後に回収していただく。
調査対象	地島の中学生以上の全島民を対象とする。※地島小学校の教職員も対象 (参考) 総人口 152 人 (平成 29 年 3 月末)
調査実施時期	平成 30 年 6 月配布、同月回収

②調査項目

調査項目	調査事項	細目
回答者の属性	性別、年齢、職業	
航路の利用状況	利用頻度	・全体、利用目的ごと
	利用目的、目的地	・通勤、通学、業務、通院、買物等 ・利用目的ごとの目的地 (市内、市外)
	利用する地島の港	・泊港、白浜港
	よく利用する便・曜日	・行き (大島港発)、帰り (神湊港発)
	港への移動手段	・自宅～白浜港・泊港、神湊港下船後
	地島フェリーについて 自動車航送の利用	・利用の有無・頻度、利用目的、車種 ・自由意見
改善要望・課題	現在の航路の満足度	・個別項目ごと (9 項目)、総合的にみて
	航路について改善してほしい点	・便数、ダイヤ、乗降しやすさ、旅客スペース、 船内環境、待合所等の環境、乗継公共交通、駐 車場、職員・船員の対応
経営改善	航路を持続するために許 容できる取組み	・運賃の値上げ、船の小型化、減便、航路見直し による効率化、
	維持してほしいサービス	・便数、所要時間、始発・終発時間、船舶の規模、 地島航路の独立性
ニューじのしま	不便と感じる点	・乗り心地、スピード、旅客定員、段差など
	ふさわしい老朽化対策	・新船建造の準備、不便は感じないので継続使用、 修理して継続使用
自由意見	航路に関する自由意見	

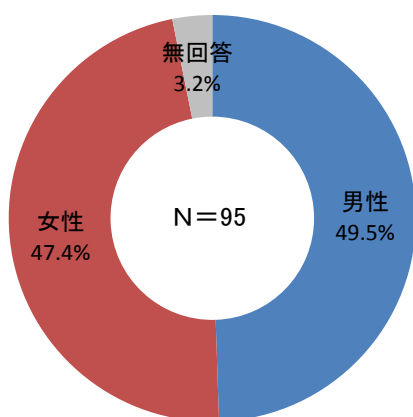
③回収状況

92 票の有効回答を得た。配布数 160 票の 57.5%にあたる。

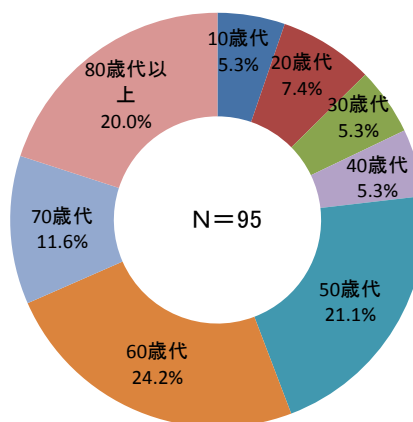
(2) 回答者の属性

○男性が50%、女性が47%と男性の方が多い。
 ○年齢は、80歳代以上が20%、70歳代12%、60歳代24%、50歳代21%、40歳代5%であり、30歳代以下は18%となっている。70歳代以上で32%を占める。
 ○職業は、農業・漁業41%が大きな割合を占めている。会社員等と派遣・パート等を合わせると22%となる。その他、主婦16%、無職10%となっている。
 ○居住地は、泊38%、豊岡53%であり、豊岡の方が多い。

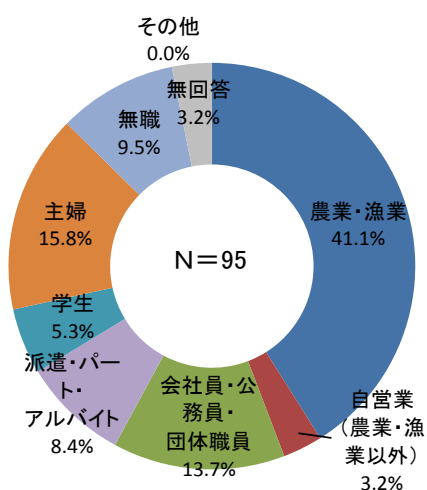
■回答者の性別



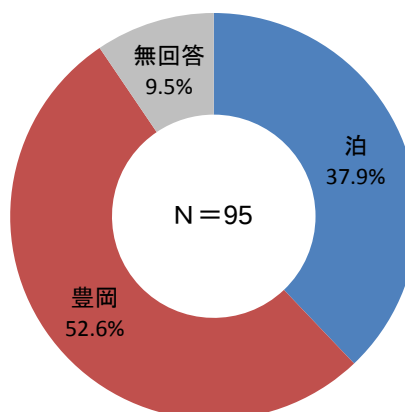
■回答者の年齢



■回答者の職業



■回答者の居住地

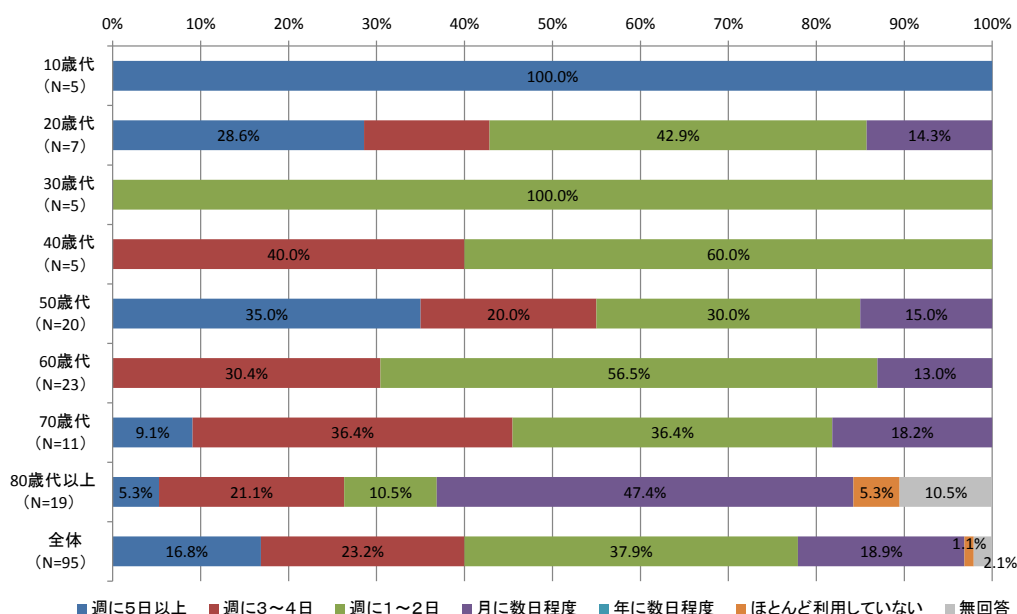
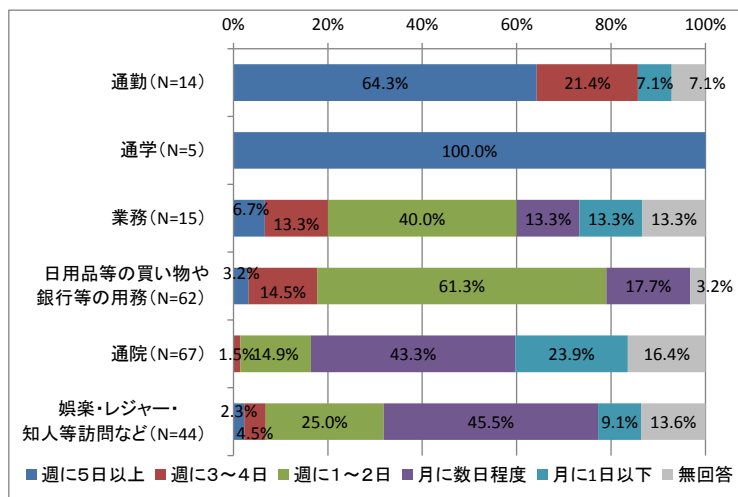
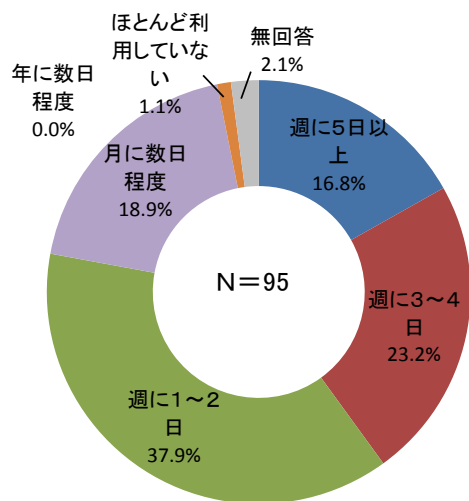


(3) 航路の利用状況

①航路の利用頻度

○地島航路は、ほとんど利用していない人は1%で、ほとんどの人は航路を利用している。
 ○利用頻度は、週5日以上16.8%、3～4日23.2%、1～2日37.9%であり、週に1日以上利用している人は77.9%である。さらに月に数回程度が18.9%であり、ほとんどの人が月1回以上航路を利用している。
 ○年齢別に利用頻度をみると、週1日以上利用している人は80歳代以上を除くすべての年齢階層で80%を超えており、80歳代以上でも36.8%の人が該当する。
 ○目的別では、通勤・通学での利用頻度が高く、ほとんどが週に3～4日以上である。業務や日用品等の買い物等は週に1～2日が最も多く、それぞれ40.0%、61.3%である。一方、通院や娯楽・レジャー等は月に数日程度が最も多く、それぞれ43.3%、45.5%である。

■航路の利用頻度



②航路の利用目的

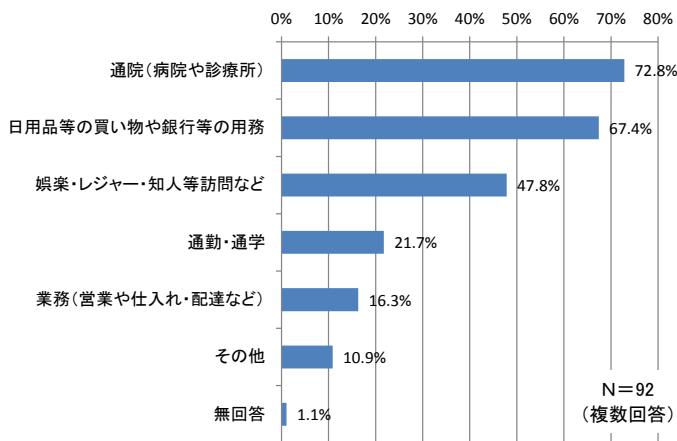
○地島航路の利用目的は、通院が最も多く 72.8%の人が通院目的で利用している。そのほか、買い物が 67.4%で、娯楽・レジャー等 47.8%と続く。利用頻度が高いと考えられる通勤・通学は 21.7%となっている。

○年齢別にみると、買い物は 20 歳代～60 歳代までで 60%を超えており、また、80 歳代以上でも 56.3%であり、幅広い年齢階層で買い物の目的で利用されている。

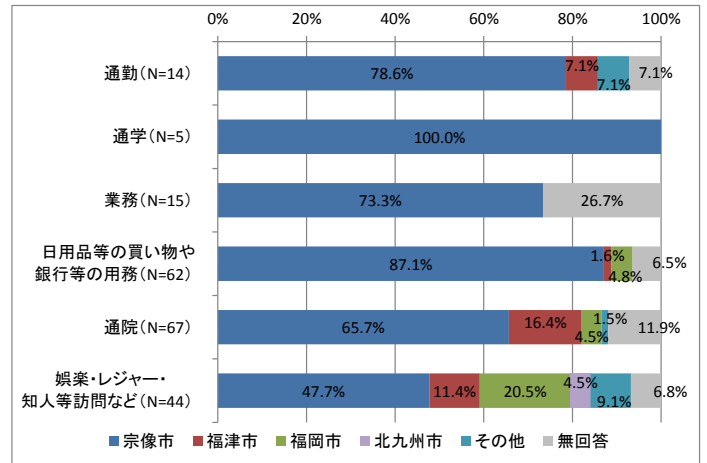
○通院目的での利用は、10 歳代～30 歳代で相対的に低いが、40 歳代以上のすべての年代で 60%を超えている。

○目的地は、ほとんどの利用目的で宗像市内が概ね 70%以上を占めるが、通院や娯楽・レジャー等の場合は宗像市内の割合は小さくなる。

■ 航路の利用目的



■ 航路の利用目的別の目的地 (行先)



■ 年齢別の地島航路の利用目的

	通勤・通学	業務 (営業や仕入れ・配達など)	日用品等の買い物や銀行等の用務	通院 (病院や診療所)	娯楽・レジャー・知人等訪問など	その他	無回答
10歳代 (N=5)	100.0%	0.0%	20.0%	40.0%	80.0%	0.0%	0.0%
20歳代 (N=7)	28.6%	14.3%	71.4%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=5)	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	60.0%	0.0%	20.0%
40歳代 (N=5)	0.0%	20.0%	100.0%	100.0%	100.0%	20.0%	0.0%
50歳代 (N=20)	45.0%	30.0%	60.0%	65.0%	35.0%	10.0%	0.0%
60歳代 (N=23)	4.3%	21.7%	73.9%	82.6%	56.5%	21.7%	0.0%
70歳代 (N=11)	9.1%	9.1%	90.9%	81.8%	54.5%	9.1%	0.0%
80歳代以上 (N=16)	12.5%	6.3%	56.3%	93.8%	31.3%	6.3%	0.0%
全体 (N=92)	21.7%	16.3%	67.4%	72.8%	47.8%	10.9%	1.1%

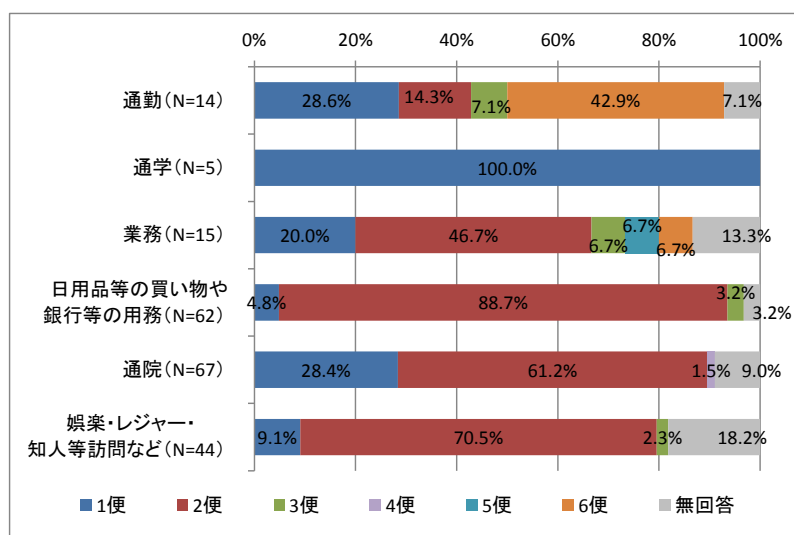
注) 複数回答であるので、横計は 100%を超える。

③よく利用する便

○地島発（行き）で普段よく利用する便は、通勤、通学では第 1 便、業務や通院では第 2 便と第 1 便、買い物では 88.7%の人が第 2 便をあげている。

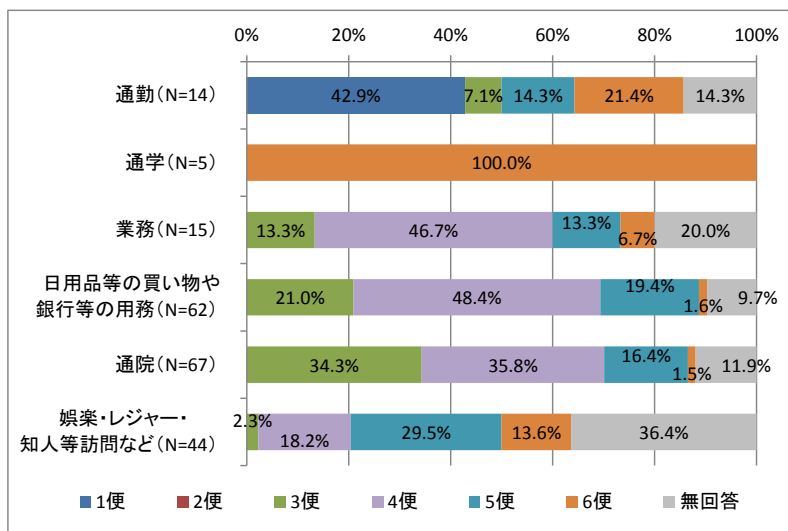
○神湊港発（帰り）については、通勤、通学では第 6 便と第 5 便、業務や買い物では第 4 便で帰る人が多い。通院では第 3 便と第 4 便を利用して帰る人が多い。

■【行き】地島（白浜港・泊港）発のよく利用する便



- 注) 1. 娯楽・レジャー・知人等訪問などで回答の多い「決まっていない」は無回答に含む。(帰りも同じ。)
 2. 地島小学校教職員を対象に含むため、通勤で地島発 6 便、神湊発 1 便が多くなっている。

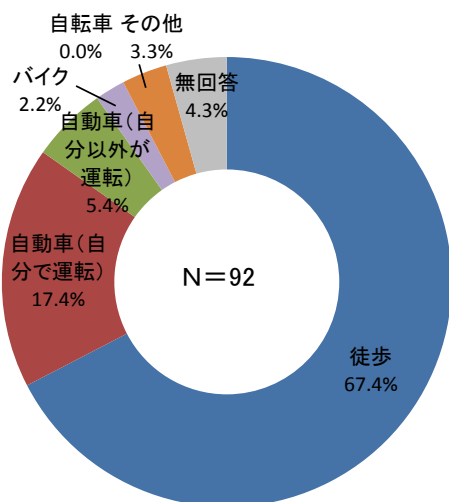
■【帰り】神湊港発のよく利用する便



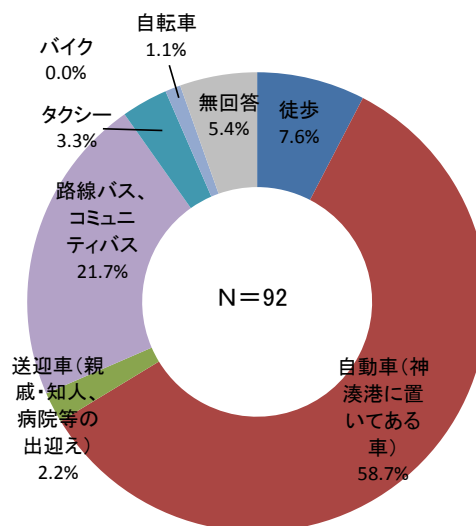
④港への移動手段

- 白浜港・泊港への移動手段は、徒歩 67.4%、自動車（自分が運転、又は、自分以外が運転）22.8%であり、徒歩と自動車で 90%を超える。
- 神湊港下船後の移動手段は、自動車（神湊に置いてある）58.7%が最も多く、これに送迎車を加えると約 61%が自動車利用となっている。一方、路線バス・コミュニティバス利用者は 21.7%であり、港への移動手段としての重要な役割を担っている。
- 神湊港下船後の移動手段を年齢別にみると、60 歳代以上の年代で路線バス・コミュニティバス利用者は大きく増える。高齢になるにつれて、自動車利用が少なくなり、路線バス利用が多くなる。路線バス利用は、60 歳代 26.1%、70 歳代 45.5%、80 歳代以上 37.5%である。80 歳代以上ではタクシー利用も 18.8%となる。

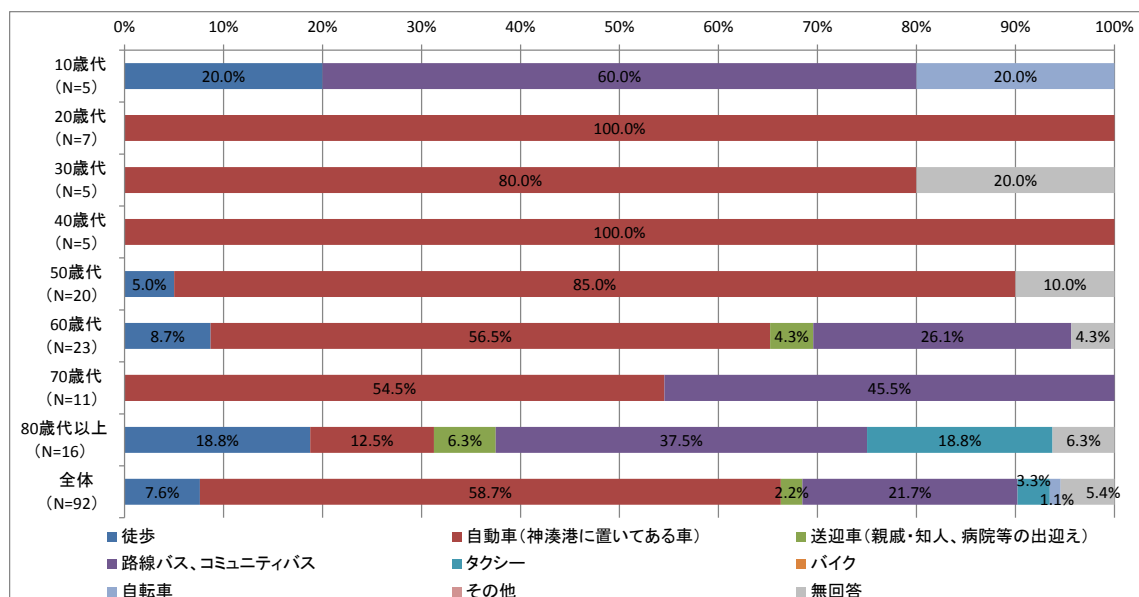
■ 白浜港・泊港への移動手段



■ 神湊港下船後の移動手段



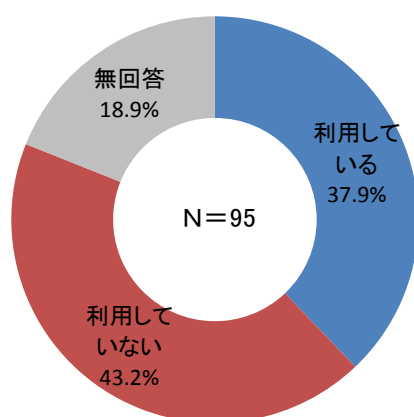
■ 神湊港下船後の年齢別移動手段



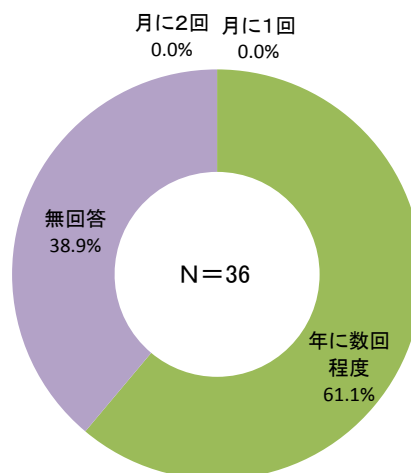
⑤地島航路（フェリー）利用状況

○ここ 2～3 年の間にフェリーでの車両航送を利用した人は約 1/3 強の 37.9%である。
 ○自動車航送の利用頻度は、回答のあった人のすべてが年に数回程度の頻度であり、もう少し頻度の高い月に 1 回あるいは 2 回の人はいなかった。
 ○自動車航送の利用目的は、無回答などわずかを除けば、ほとんどすべてが車検・修理等で、業務等での利用はなかった。
 ○航送自動車の車種は、無回答を除けば、すべてが軽自動車を含む普通自動車である。

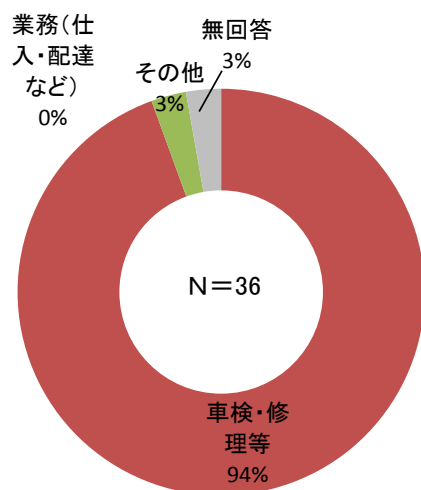
■自動車航送の利用の有無



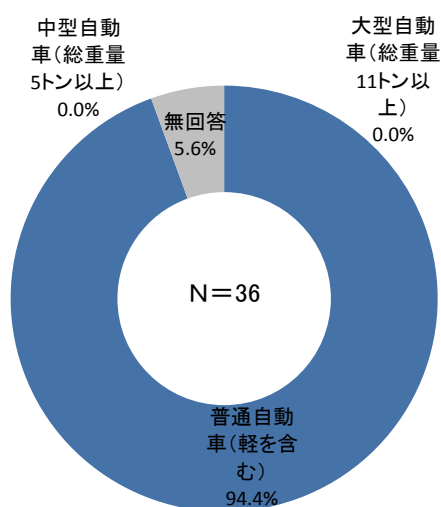
■自動車航送の利用頻度



■自動車航送の利用目的



■航送自動車の車種



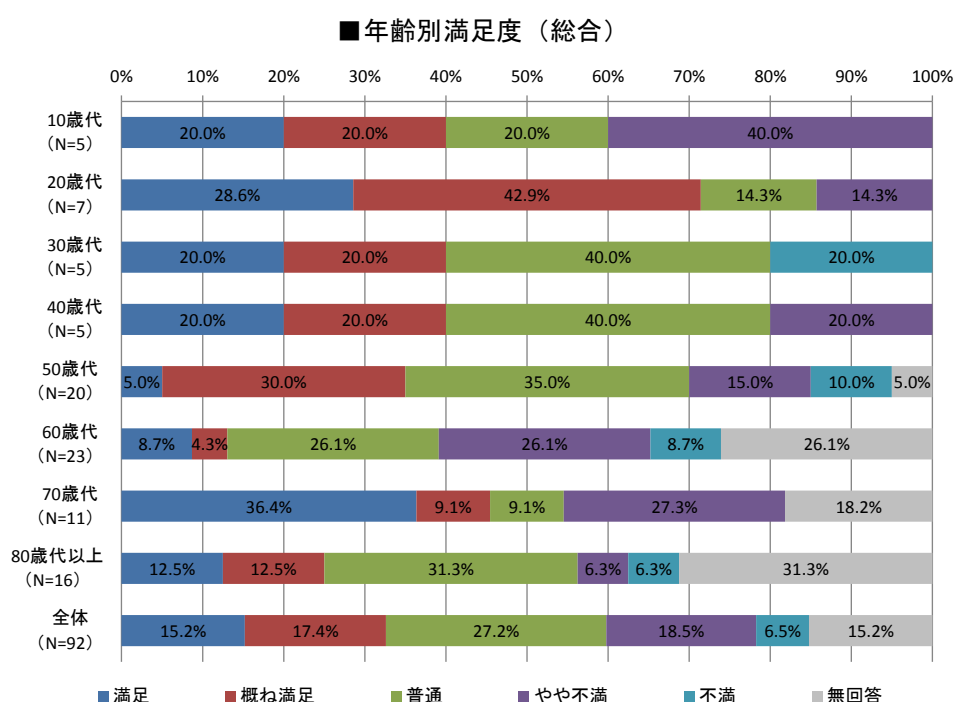
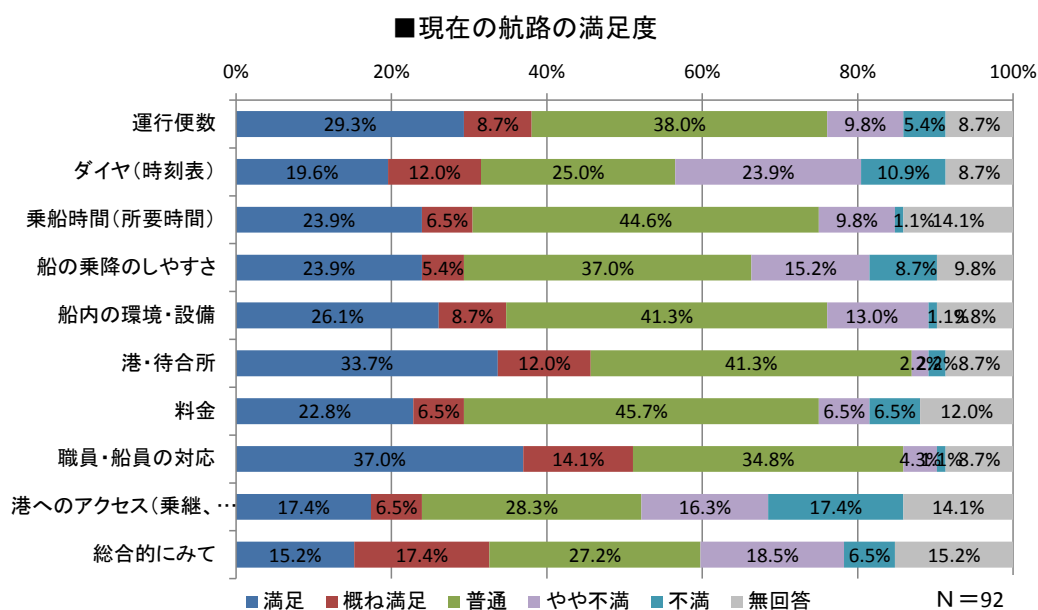
(4) 航路の改善してほしい点

①現在の航路の満足度

○現在の地島航路についての総合的にみた満足度は、満足 15.2%、概ね満足 17.4%、一方、不満 6.5%、やや不満 18.5%であり、満足と感じている人の方が7.6ポイント多い。

○項目別にみると、不満とやや不満の合計が20%を超えているのは、ダイヤ 34.8%、港へのアクセス 33.7%、船の乗降のしやすさ 23.9%である。

○年齢別に総合的にみた満足度をみると、不満とやや不満の合計は、10歳代が40.0%と最も高い。20歳代～40歳代は低位で推移し、50歳代で増加し60歳代には34.8%と高くなる。10歳代を別にすれば、50歳代～70歳代の高年齢層で不満度が高くなっている。



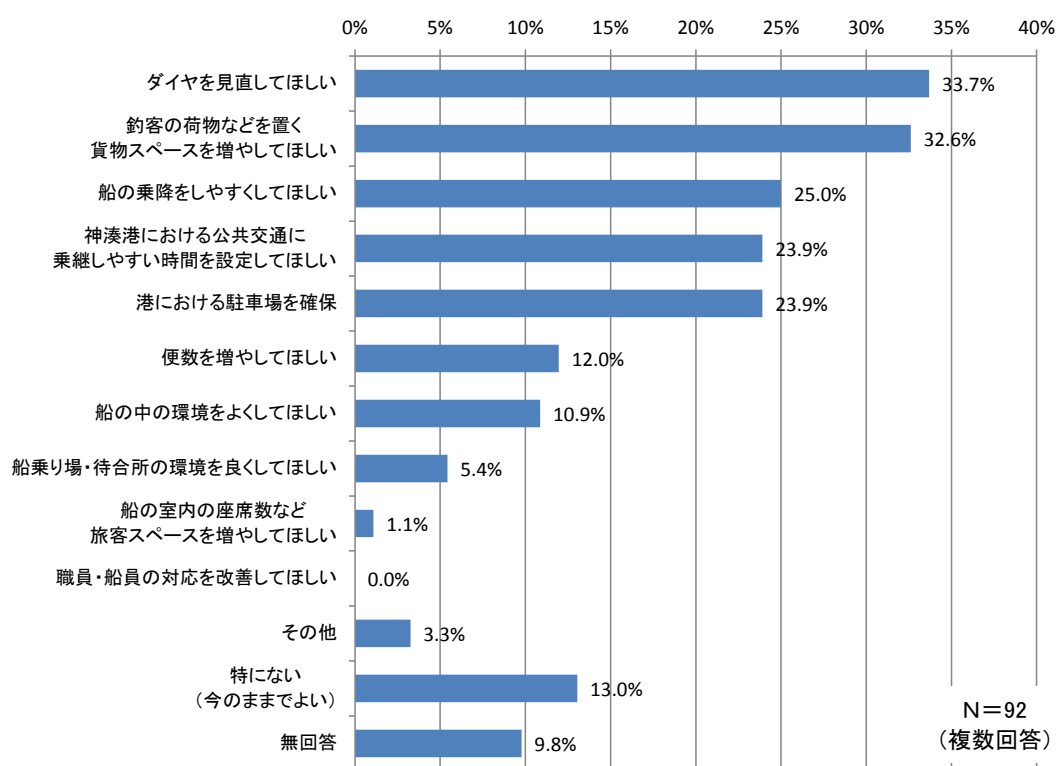
②航路について改善してほしい点

○地島航路については、77.2%の人が何らかの改善してほしい点を指摘している。特にない（今のままでよい）は 13.0%である。（無回答 9.8%）

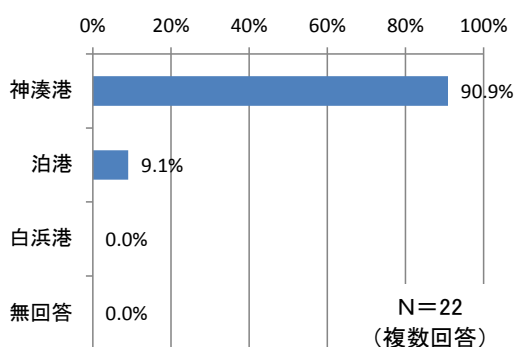
○改善してほしい点として、最も多かったのがダイヤの見直し 33.7%と釣り客等の荷物スペースの確保 32.6%である。次いで、船の乗降をしやすく 25.0%、神湊港での公共交通機関へ乗継しやすさ 23.9%、港における駐車場の確保 23.9%が続く。便数増、船内環境を良くするは 10%台前半にとどまる。

○ダイヤの具体的な見直しの要望は個々の人のニーズを反映して多様である、相反する要望も少ない。

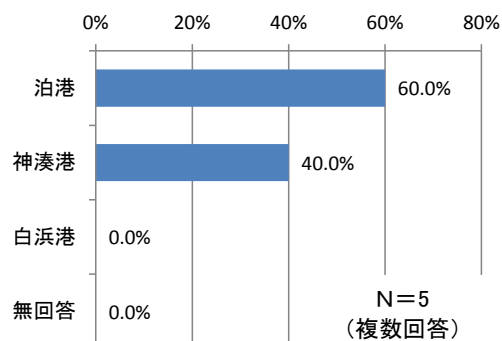
■航路の改善してほしい点



■港の駐車場の確保（内容）



■乗り場・待合所の環境改善（内容）



■ダイヤの改善要望の内容

		現状	希望する時間	理由	回答者数			
地島発	白浜港発	2便	8:40	830	宗像市で会議がある場合、少しおくれるので心ぐるしい。	1		
				835		1		
				900	1便→2便までの時間と、2便→3便までの時間の差があるため。	1		
				930		1		
		3便	11:30	1030	8時40分白浜発の跡が1時30分発なので、時間が空きすぎているから。	1		
		6便	17:30	1720	西鉄バスへの接続が悪いため	1		
	泊発					3		
		1便	6:55	715	中学生の待ち時間解消の為	1		
		3便	11:40	1215		1		
			1220	午後の用事に11:40では早すぎ、14:20では間に合わない。	1			
神湊発	神湊発	2便	10:05	1020		1		
				1030	8時ごろの渡船で出ていっても、10時5分ではちょっとした用事でも帰れない。 近くの買い物でも帰れない。	2		
				1040	ちょっとした用事で出る時に便利が悪い。 道の駅、コメリで買い物する時間に間に合うから。	1		
				1045	10:05の次が12:20までの間が長い。 通院、買い物で時間がかかり、12:20まででは待ち時間が余り待つのが苦しい。 病院に行っても10:05には間に合わなく、10:45だったらOK。	1		
				1100	10時5分では何も出来ない。	1		
				3便	12:20	1230		1
				4便	15:10	1530	早すぎる。	1
						1540	14:30には宗像市内を出発しないといけないから。	1
						無回答	15時10分の神湊発を無くす。客が乗って来ず、島の人もまばらなため。	1
		5便	16:40	1630		1		
				無回答	地島行きとフェリーの入港が同時刻なのでどちらかをずらす。	1		
		6便	18:20	700		1		
				1830	4時40分発も一緒に大島フェリーの入港をまっていなければならない。 毎日16時40分と18時20分が出港時間を遅れているから。	1		
				1900	遠出した際に時間が足りない。 仕事上	2		
				無回答		1		
				730	-	1		

■年齢別の航路の改善してほしい点

	旅客船の便数を増やしてほしい	旅客船のダイヤを見直してほしい	船の乗降をしやすい(乗降口や通路を広くする、段差をなくするなど)	船の室内の座席数など旅客スペースを増やしてほしい	釣客の荷物などを置く貨物スペースを増やしてほしい	船の中の環境をよくしてほしい(室内温度、トイレ、内装、テレビ等)	船乗り場・待合所の環境を良くしてほしい	神湊港における公共交通に乗り継しやすいつ時間を設定してほしい	港における駐車場の確保(収容台数を増加)してほしい	職員・船員の対応を改善してほしい	その他	特にない(今のままでよい)	無回答
10歳代(N=5)	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
20歳代(N=7)	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%
30歳代(N=5)	40.0%	80.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
40歳代(N=5)	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
50歳代(N=20)	20.0%	35.0%	15.0%	0.0%	25.0%	10.0%	5.0%	5.0%	30.0%	0.0%	10.0%	15.0%	10.0%
60歳代(N=23)	4.3%	39.1%	26.1%	0.0%	43.5%	8.7%	0.0%	30.4%	30.4%	0.0%	4.3%	17.4%	13.0%
70歳代(N=11)	0.0%	27.3%	45.5%	0.0%	36.4%	0.0%	0.0%	36.4%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
80歳代以上(N=16)	0.0%	31.3%	37.5%	6.3%	25.0%	6.3%	12.5%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	25.0%
全体(N=92)	12.0%	33.7%	25.0%	1.1%	32.6%	10.9%	5.4%	23.9%	23.9%	0.0%	3.3%	13.0%	9.8%

■航路の改善してほしい点（具体的内容）

項目	改善要望
便数	・旅客船の便数を増やしてほしい。
ダイヤ	・神湊に大島のフェリーの着く時間が数分遅く地島行き神湊発がフェリーが着くのを待っている。 ・島外で夕食を食べて帰れる便があれば便利。次の日に沖に出る事があっても気軽に島外に住む親や子供と夕食をとれる。また日帰り旅行等にも行く事が出来る。20時～21時で大島と連携（その便のみ）でも助かる。 ・10時5分神湊発だと老人は朝一で行くので10時45分ごろがいい。又、4時40分神湊発はフェリーの着岸するのを待つまでは出港しないので40分発は30分の方がいい。 ・大島のフェリーの入港時間で4時40分と最終便はいままで時間通りに出た事はなくニュージのしまはまっている。 ・13:10の神湊発は無くして、5便の16:40を調整してもいいかと思う。
バリアフリー	・島も高齢化していくので車椅子でも楽に乗り降りできるようにしてもらいたいです。 ・新造船の場合は乗降口を今より少し広く貨物室も少し広く希望します。 ・船の乗降段差をなくして、バリアフリーにしてほしいです。泊港で乗降する時、下が海なので恐いです。 ・足が悪いので乗降がしにくい。 ・高齢者が増えているので段差のない船がいいと思う。こけるとあぶないから。 ・おりるところをおりやすく。 ・トイレをバリアフリー等きれいにしてほしい。 ・お年寄りが多いので、バリアフリーにしてほしい。
乗降	・おりる時に釣り客の荷物と釣り客が多く、いそいでいる時にすぐに降りられない為、釣り客とおりる所を変えて欲しい。釣り客は後ろからおりる等、その為に船を少しかいそうしなければいけない。
荷物置き場	・釣客の荷物を乗降口ではない所にしてほしい。 ・天気の良い日など釣客の荷物でとても混雑している。 ・おりる時ちょっと足をあげないといけないうのがきつい。荷物があつておりにくい。 ・おりにくいので、釣客の荷物置き場を客がおりるところでないと作って欲しい。 ・釣客の荷物があつた場合、通りにくいので置くスペースを作ってもらいたい。
船内環境	・トイレがせまい。 ・船内の臭いが臭く、つり客の臭い、汗臭などがいりまじり合い、吐き気がする時があるので改善してほしい。
船乗り場・待合所	・泊港を早く浮サンバシにしてほしい。 ・泊港が浮桟橋になれば歩み板は船の方に設置すれば良いと思います。志賀島の渡船を参考。 ・押車を利用して居ります。泊の方も乗降口を浮桟橋にして頂けたらと願って居ります。 ・泊港の改善を早くしてほしい。
料金	・渡船の運賃が高い。貨物代も高い。車の駐車料金も高い。いつも利用する島民にはこたえる。
公共交通との乗継	・公共交通のバスの時間をもう少し見直してほしい。特に朝。 ・コミュニティバスは大島にあわせているのか地島は乗れる便は行きの9:20しかない。帰りは船の時間帯にあう時間がない。 ・バスが休みの日に11:30発の船にのるとない。光陽台行きのバスもあまりない。船の時間はよいので、バスの時間を船に合わせてほしい。 ・バスのダイヤを船に合わせて欲しい(バスがあわせる)。 ・たまにバスを利用するが、日曜日？バスが船の時間とあっていない。または光陽台行きが少ない。 ・神湊下船後のバスの時間が不便なので、毎便は無理だと思うが、バスの時間を調整してほしい。
駐車場	・希望者全員、第一駐車場にとめられるようにしてもらいたいです。 ・神湊の駐車場の月極めの場所の確保をちゃんとしてほしい。第1で月払いしてるのに連休などの時第2になったりする。 ・泊港の駐車場をきれいに、コンクリートにしてほしいです。 ・朝の忙しい時間に第一駐車場が満車の時がある。定期券を持つ車を優先してほしい。 ・神湊の駐車場(第一)にとめる事ができない場合がよくあるので地島の人の駐車場を確保してほしい。 ・世界遺産で大島に渡るお客さんが増え、駐車場代金が入っている。島民があいている時間を考えて帰ってくる様な事が増えました。地島島民の駐車場を確保してほしい。観光客の人は別(専門)の駐車場を作してほしい。 ・月極めで駐車場を借りているのに、月極めで駐車場を借りていない人が車をとめているので、それはおかしいと思います。第1駐車場をかりていて小さい子供がいるので車をとめれないときは、毎月3600円はらっているのでも困ります。とてもじゃないけど馬鹿らしいくらいにおもっているのでもうかしてください。 ・出掛けたくても前回帰ってきた時に第1に停められず。第2駐車場に停めていた場合すごく不便です。雨天時等はずっと最悪です。子供を連れて歩いて行くのが大変になる為、医療症のコピー等を提出したり、料金を払っているにも関わらずとても残念です。 ・島の人の車(駐車場)をかくほしてほしい。 ・市場あとでよいので島民専用駐車場が欲しい。月極めなのに駐車できない(満車)のはおかしい。 ・地島、大島は渡船が生活の一部であり、その延長に駐車場がありますが、毎年第1は抽選、しかも確保ではなく置けない時は第2へとあります。それならば、なぜ抽選にするのか…。私達、島民の生活の過程なのに、本当にわかってもらいたいのでしょうか？ ・離島者の駐車場は第1駐車場を優先してほしい。 ・神湊の荷物の出し入れしにくい。神湊の駐車場の指定の駐車場がほしい。

項目	改善要望
職員・船員の 対応	・職員のその日の気分しだいでお客さんに対応してほしい。 ・待合所はロープを取るだけでなく、お客さんの相手、掃除をしてほしい。

注) 一人の意見も、項目に分けて項目ごとに記載している。

■地島フェリー便についての自由意見

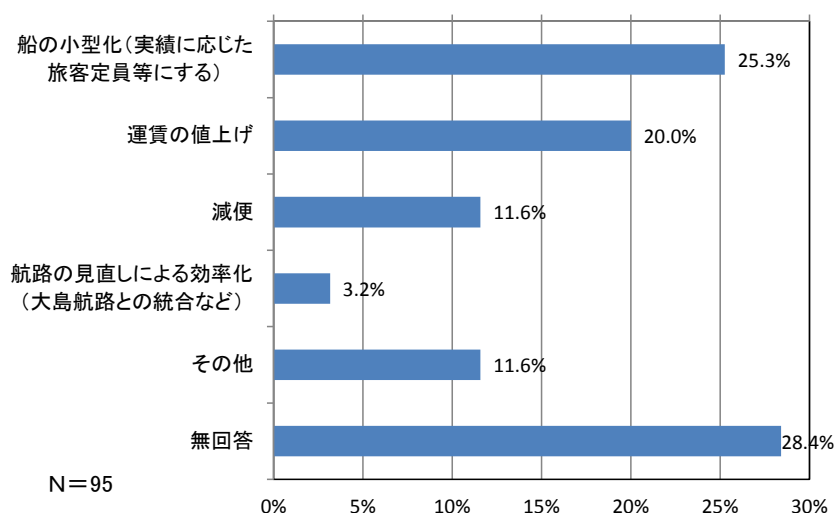
項目	地島フェリー便についての自由意見
運航日・便数	・平日なので、学校だから利用できない。乗りたいけど(月に2回しかなく)夏休みとかしかのれない。 ・もう少し便を増やしてほしい。 ・もう少しふやしてほしい。
ダイヤ(停泊 時間)	・朝、島を出て、夕方島に帰ってこれる便があれば良いなと思います。 ・地島着と発の時間を2時間くらいとれたら、工事関係者とかも仕事がしやすくなるんじゃないかと。 ・白浜港に泊まっている時間がみじかすぎる。もうすこし長い時間にしてほしい。たとえば朝～夕方までとか？ ・地島に居る時間をもう少し長くないでしょうか。 ・荷物を積んだ車が泊にくる時間がない。すぐに帰れない2週間トラックなどをおいとかないいけないと困る。 ・出来れば車で当日に行き帰ってこれる便を作してほしいです。買物で荷物が多い時など1回1回降ろしたり、積み込むのに体力的にきつく島での生活が苦痛になる。 ・フェリーはきたら、すぐ出ますね。もう少し長い時間地島にとまれば利用しやすいです。 ・地島での係留時間が短く、利用しにくい。最低3時間は係留してほしい。 ・やはり島の滞在時間を長くしてほしい。 ・フェリーの着岸の時間が短い。
利用方法等	・大きな物をはこんだりするときに便利だと思う。 ・自宅改築の時にフェリーを使って材料を運ぶ予定だったが、思うように利用できなかった。 ・車検に出すのに便利。 ・フェリーが着くので大変たすかっている。
その他	・島の人の意見を聞き、車はなるべく島の人達の車を優せんしてほしいです。 ・いつきているか、よくわからない。 ・いぜんのようにもっと車が積めたらよい。 ・以前のように、もっと台数を増やしてほしい。4台しかのれないのは、車検の時に困る。 ・今のままで大丈夫だと思います。

（５）航路の経営改善の取組み

①航路を持続していくために許容できる取組み

○地島航路を持続していくために許容できる取組みとしては、船の小型化（実績に応じた旅客定員等）が25.3%と最も多く、次いで、運賃の値上げ20.0%、減便11.6%となっている。航路の見直しによる効率化を選択した人は3.2%にとどまる。
○許容できる取組みについての年齢による明確な差異（特性）はみられない。

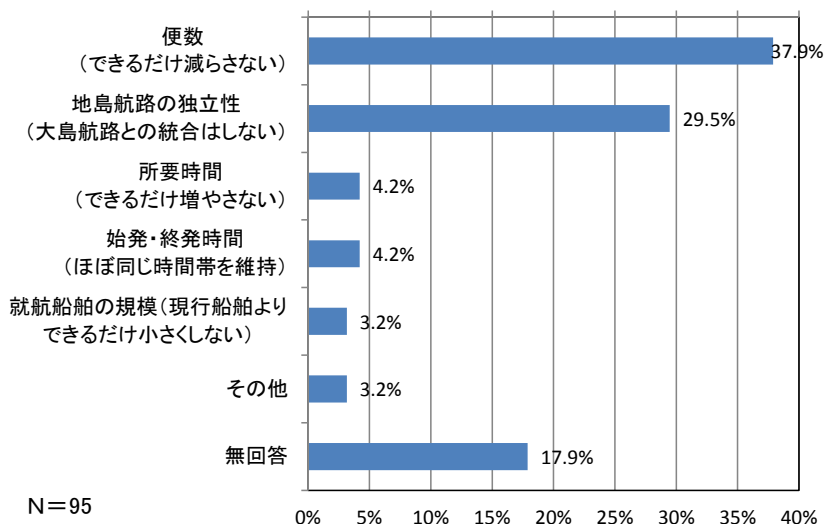
■航路持続のために許容できる取組み



②航路において維持してほしいサービスを

○地島航路において維持してほしいサービスは、便数（できるだけ減らさない）が37.9%と最も多く、次いで、地島航路の独立性（大島航路との統合はしない）が29.5%となっている。
○その他、所要時間、始発・終発時間、船舶の規模は3~4%となっている。
○無回答も17.9%を占める。

■維持してほしいサービス



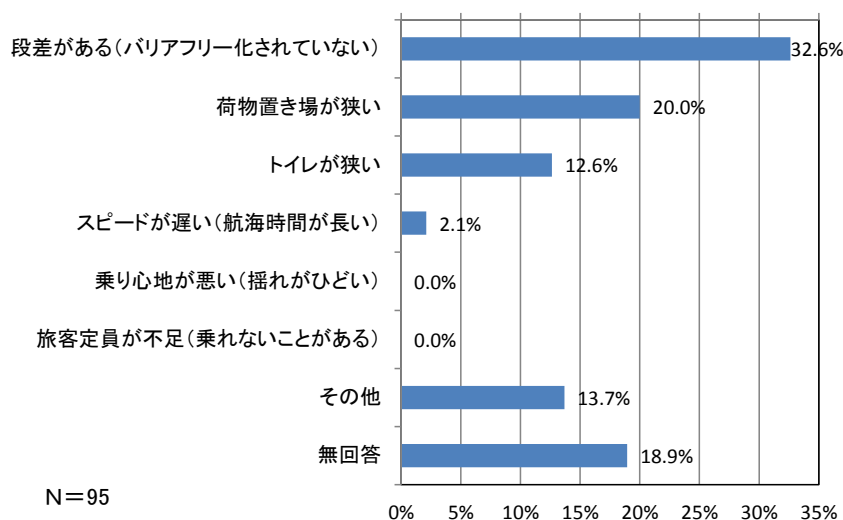
(6)「ニューじのしま」について

①「ニューじのしま」で不便に感じる点

○現在、地島航路に就航している「ニューじのしま」で不便に感じる点としては、段差（バリアフリー化されていない）32.6%、荷物置き場が狭い20.0%、トイレが狭い12.6%があげられており、船内における利便性・快適性に関する項目で占められている。

○一方、スピード（所要時間）、乗り心地（揺れ）、旅客定員をあげた人はゼロ又は2%程度とわずかである。

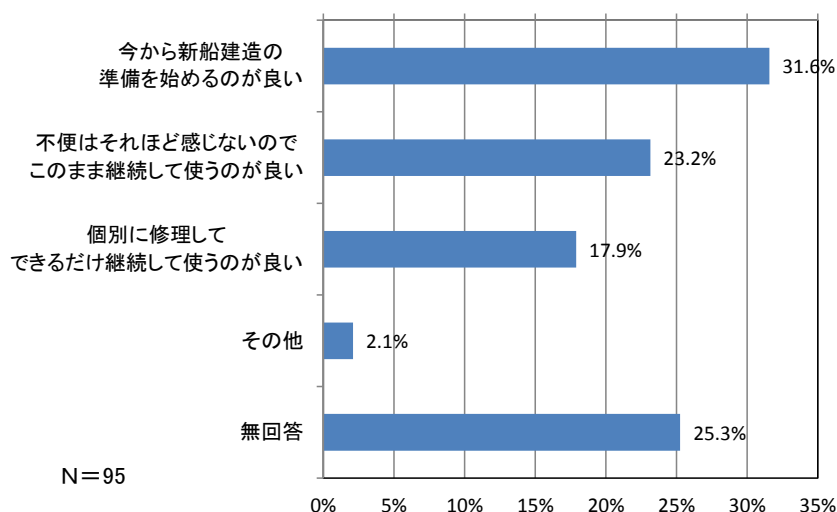
■「ニューじのしま」で不便に感じる点



②「ニューじのしま」の老朽化への対応策

○「ニューじのしま」が老朽化しつつあることに対しては、「今から新船建造の準備を始めるのが良い」が31.6%と最も多いが、「不便はそれほど感じないのでこのまま継続して使うのが良い」23.2%、「個別に修理してできるだけ継続して使うのが良い」17.9%となっており、両者を合わせると継続して使うのが良いと考えている人が41.1%となる。

■「ニューじのしま」の老朽化への対応策



■「ニューじのしま」の新船建造についての自由意見

項目	地島フェリー便についての自由意見
賛成、必要	・新しくすることによって乗船しやすくなって、集客でできればいいと思う。 ・魚の運搬などをしやすくすることによって、漁業効率の安定化ができればいいと思う。 ・賛成します。 ・いいと思う。 ・地島に住む人にとっては船はとても大事な物。新船になるとしたらたすかります。 ・連絡船の安全性の上、老朽化して悪くなった事で、新船を作った方がよいです。 ・大島航路とは別にする方向でニューじのしまの新船を早急に取り組んだほうが良いと思います。なぜかと言うと合流すると航路時間が必要以上に掛かり、通勤に支障が出るためです。作り替えるなら出来るだけ早く行った方がよいと思います。 ・新船を希望します。 ・新船を希望します。 ・若い人達も現在残ってくれてたり、この先若い人達がかえってこれるように、移住される方も増えるように新船は必要です。未来に希望がもてますように、新船をよろしく願います。今できる事を地域でも頑張っていくますので、本当によろしく願います。 ・新船を希望します。 ・船齢から見てもそろそろ新船を作った方がよいと思う。今までより安定する船を作ってほしい。荷物スペースをもっと増やしてほしい。 ・今から島民も年をとり、足も不自由になり、又、旅行客も増えるため、今の現行船の欠点を改善するためにも、新船にした方がよい。
新船建造の場合の希望	・高齢者、身体障害者などのバリアフリー化など利用しやすい船(トイレなども含む)。 ・船のバリアフリーにしてほしい。 ・小型化にして経費を減らす、便数を増やすなど。 ・環境への影響が少ない船を作るべきだと思う。 ・安全第一に考えてほしい。新船建造は小型化でも良いと思う。 ・今の船より少し小さい船でもいいかも。島の人が少なくなってるから船が通わなくなったらこまる。 ・新造船を作るなら、今と同じ船がよい。 ・新造船を作る場合は現在の造船所で作る事、今の船が地島航路にできている(船を高くしない事)を(よくよく)御願致します。 ・最初の設計のような船を御願致します。
状況に応じて判断	・老朽化しているのなら作ってよいと思います。 ・いたしかたない。 ・新船も必要かとは思いますが、新船にする事によって運賃値上げなどなると生活がきびしくなります。 ・新船にする事によってしょうじるリスクが多いならしない方がよいと思います。 ・修理して乗れるなら修理した方がよい。 ・減便とかするなら旧船を大事に使う事を望む。 ・新船にすると、今のよう波に乗りやすい船が出来るとは思わない。大島の船をみてわかる。 ・新船にしなければ運航に支障をきたすようであればそれが望ましいが、修理で大丈夫ならばそれで良いと思う。 ・どちらでも良いと思う。 ・今のままで、悪いところがあれば修理して使うということでもいいと思います。絶対に新船にしないといけいなら新船に建造しなせればいいと思う。でも、新船も今と同じ作りでいい。 ・今現在のままで乗客等に危険を及ぼす可能性があるのなら建造し直すのがいいかもしれませんが、そこまで急いでもするほどでもなければ、悪いところを修理し、維持すればいいのかなと思います。 ・これから人口は減少していきます。新船に建造し直す必要があるのか？修理しても数年しか使えないのであれば新船建造を検討していただきたい。新船に使うお金を今現在の船に活用して頂きたい。 ・バリアフリーでないところが今の船にはあるため、新船にするならそこも変えてもよいかもしれません。修理をしてあと何十年もてるのであれば、修理して新船にするためのお金を島民ただ(乗船)とかしてもらえると助かります。島じたいがあと何年もてるのやら…(人口減少)
反対、必要ない	・新船は建造しなくてもいいと思う。 ・不便は感じません。必要なところを修理したり改良しながら、継続して使うのが良いと思う。 ・赤字航路であるのであれば、できるだけ長く継続して使った方がよいと思います。運賃が値上げになるのは、家計にひびき困ります。 ・税金のむだ使い。 ・現在の船を一部改良し使用する事により、経費の削減が出来、一部赤字の補填が出来る。 ・今のままで良い。 ・今の船で良い。 ・ニューじのしまは、ゆれのないし、乗りごちがよい。今の船がよい。
その他	・島民の元気の源は学校、生活の礎は渡船でしょう。少数だからと見捨てることなく、いわゆる弱者にも優しい市政であることを期待します。 ・修理したら何年もてるか？ ・今年に入り、船内の雰囲気の前とくらべてよくない。

1－2. 大島島民に対するアンケート調査

(1) アンケート調査の概要

①調査の実施方法

項 目	概 要
調査方法	隣組長さんのご協力により、調査票を対象人数分配布し、一定期間後に回収していただく。 中学生については、中学校の協力を得て、学校で配布・回収をお願いする。
調査対象	大島の中学生以上の全島民を対象とする。※大島学園の教職員も対象 (参考) 総人口 680 人 (平成 29 年 3 月末)
調査実施時期	平成 30 年 6 月配布、同月回収

②調査項目

調査項目	調査事項	細目
回答者の属性	性別、年齢、職業	
航路の利用状況	利用頻度	・ 全体
	利用目的、目的地	・ 通勤・通学、業務、通院、買物等 ・ 利用目的ごとの目的地 (市内、市外)
経営改善	航路を持続するために許容できる取組み	・ 運賃の値上げ、船舶数の見直し、減便、航路見直しによる効率化、
	維持してほしいサービス	・ 便数、所要時間、始発・終発時間、船舶の規模、大島航路の独立性
自由意見	航路に関する自由意見	

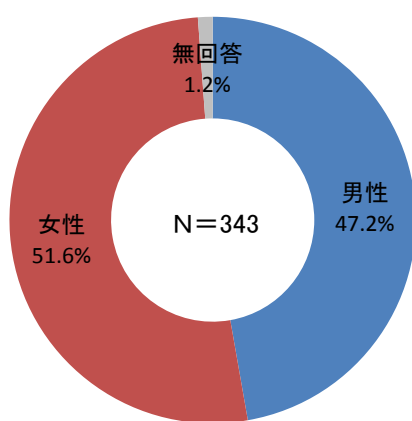
③回収状況

343 票の有効回答を得た。配布数 478 票の 71.8%にあたる。

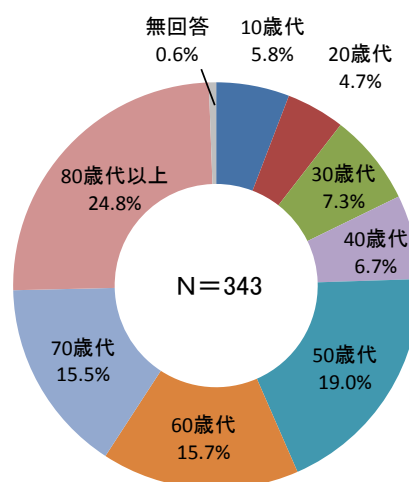
(2) 回答者の属性

○男性が 47%、女性が 52%と女性の方が多い。
 ○年齢は、80 歳代以上が 25%と最も多く、70 歳代 16%、60 歳代 16%、50 歳代 19%、40 歳代 7%であり、30 歳代以下は 18%となっている。
 ○職業は、農業・漁業 22%、主婦 18%、無職 26%が大きな割合を占めている。会社員等と派遣・パート等を合わせると 18%となる。。

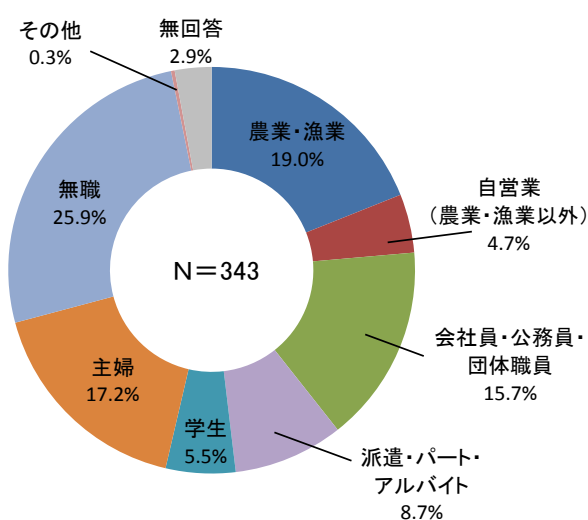
■回答者の性別



■回答者の年齢



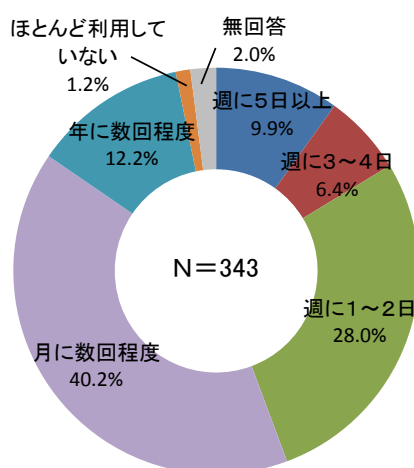
■回答者の職業



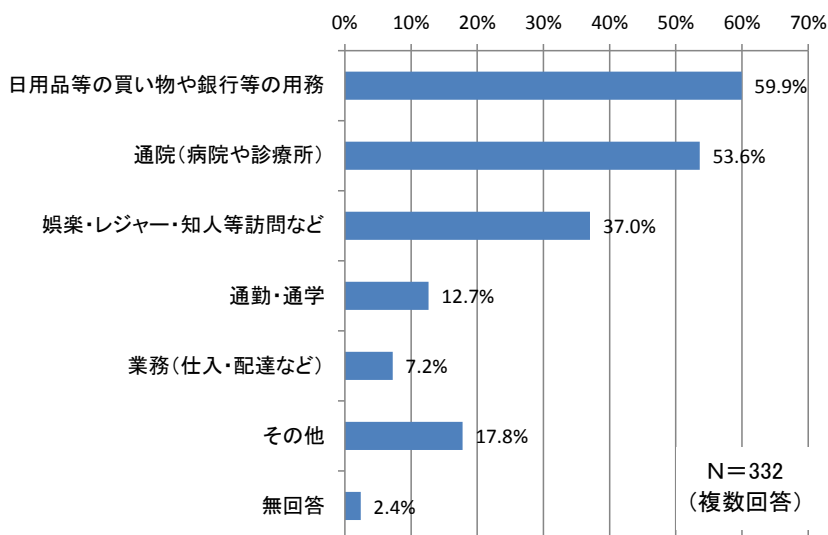
(3) 航路の利用状況

○大島航路は、ほとんど利用していない人は1%で、ほとんどの人は航路を利用している。
 ○利用頻度は、週5日以上9.9%、3～4日6.4%、1～2日28.0%であり、週に1日以上利用している人は44.3%となっている。月に数回程度が40.2%と最も多い。年に数回程度の利用の人は12.2%となっている。また、毎月1回以上利用している人は約85%にのぼる。
 ○目的別では、日用品等の買い物や銀行等の用務が59.9%と最も多く、次いで通院53.6%となっている。通勤・通学12.7%、業務7.2%となっている。

■航路の利用頻度



■航路を利用する主な目的



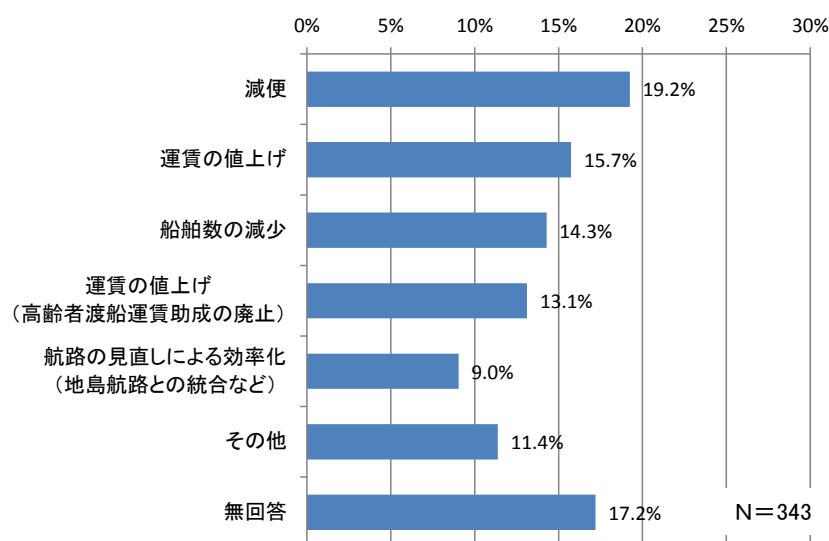
(4) 航路の経営改善の取組み

①航路を持続していくために許容できる取組み

○大島航路を持続していくために許容できる取組みとしては、減便が 19.2%で最も多く、次いで、運賃の値上げ 15.7%、船舶数の減少 14.3%、運賃の値上げ（高齢者渡船運賃助成の廃止）11.1%と続く。航路の見直しによる効率化を選択した人は地島の場合よりは多いが、10%未滿にとどまる。

○減便がトップにあげられているが、一方で、便数は維持してほしいサービスのトップであり、人々の生活スタイルと移動ニーズにより便数に対する評価が大きく異なる結果となっている。

■ 航路持続のために許容できる取組み

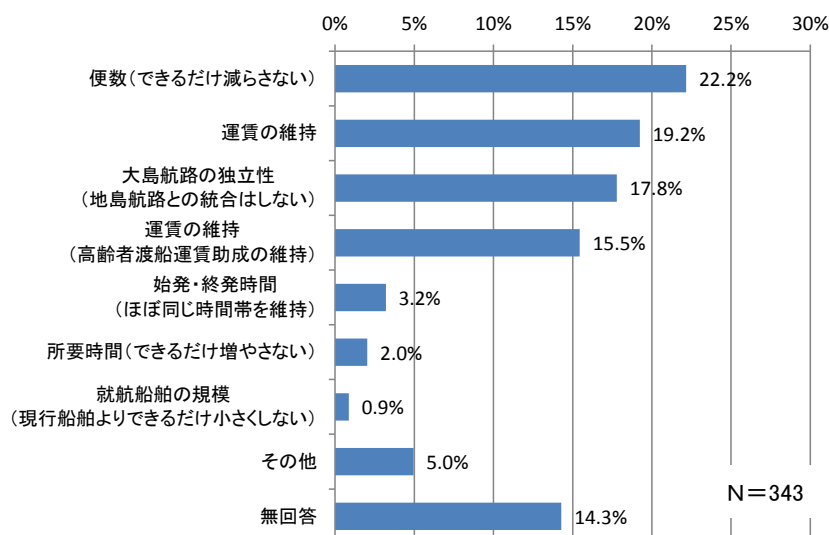


②航路において維持してほしいサービスを

○大島航路において維持してほしいサービスは、便数（できるだけ減らさない）が 22.2%と最も多く、次いで、運賃の維持 19.2%、大島航路の独立性（地島航路との統合はしない）が 17.8%、運賃の維持（高齢者渡船運賃助成の維持）15.5%となっている。

○その他、始発・終発時間、所要時間、船舶の規模は3%程度未滿となっている。

■ 維持してほしいサービス



1－3. 島外からの地島航路利用者のアンケート調査

(1) アンケート調査の概要

①調査の実施方法

項 目	概 要
調査方法	船員が乗船時に調査票を配布、記載を依頼し、下船時に回収する。 ※配布の際には、島外者（島外に居住）を確認する。
調査対象	地島航路利用者のうち、島外に居住している人を対象とする。
調査実施時期	平成30年7月19日～8月9日

②調査項目

調査項目	調査事項	細目
回答者の属性	性別、年齢、居住地	
地島来訪の概要	利用目的	・業務、観光、釣り、自然体験・ウォーキング、食事、親戚・知人訪問など
	同行者	・一人、夫婦、家族、友人など
	旅程	・日帰り、宿泊
	大島への来訪回数	・初めて、2～3回目、何度も
航路の利用状況	今回利用する便	・行き（神湊港発）、帰り（地島発）
	今回利用する港	・泊港、白浜港（行き、帰り）
航路情報の取得	ダイヤ等の航路情報の取得方法	・市ホームページ、観光パンフレット・ガイドブック、渡船ターミナルなど
改善点	航路について改善してほしい点	・ダイヤ、便数、車両積載、座席数、船内環境、バリアフリー化、荷物置き場、待合所等の環境、駐車場、乗継公共交通、職員・船員の対応

③回収状況

81票の有効回答を得た。

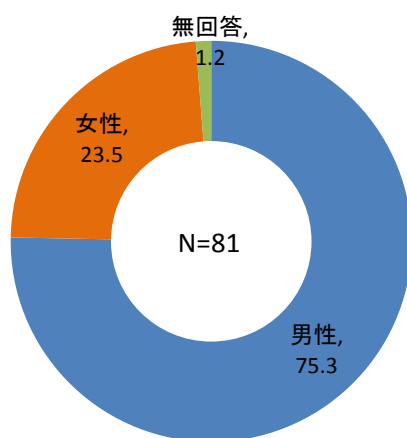
(2) 回答者の属性

○男性が 75.3%、女性が 23.5%と男性が多い。

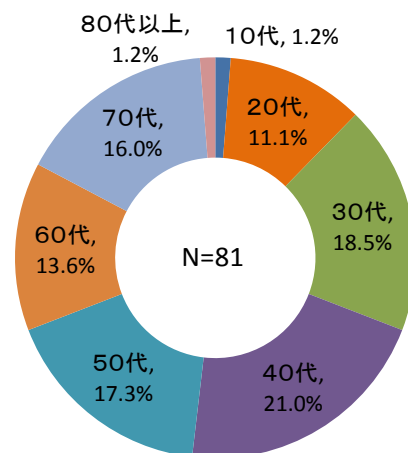
○島外からの利用者の年齢は比較的偏りなく各年齢階層に分布している。70 歳代は 16.0%であるが、80 歳代になると 1.2%とわずかになる。

○居住地は、宗像市内 37.0%、宗像市を除く県内 56.8%となっている。県外からの来訪者はわずかで、県内からが約 94%占めている。

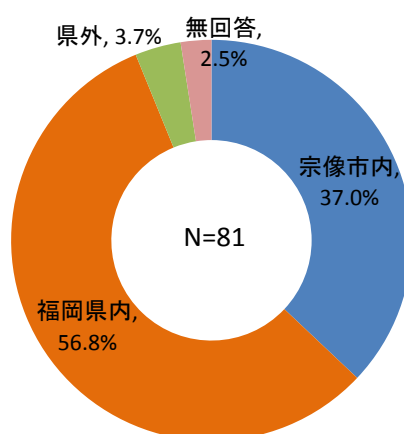
■回答者の性別



■回答者の年齢



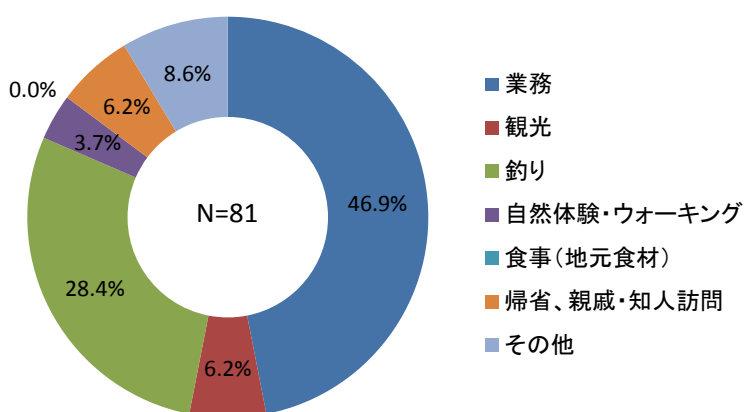
■回答者の居住地



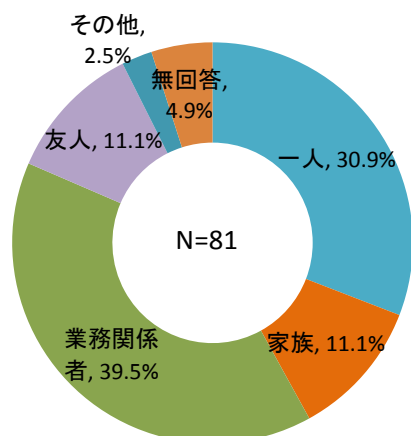
(3) 地島来訪の概要

- 地島来訪の目的は、業務が最も多く 46.9%と半数近くを占め、次いで釣り 28.4%となっている。
- 観光 6.2%、自然体験・ウォーキング 3.7%となっており、観光系は合わせると約 10%となる。
- 同行者は、業務目的が多いこともあり、業務関係者が 39.5%を占め、一人 30.9%、家族 11.1%、友人 11.1%となっている。
- 日帰りが多く 77.8%である。宿泊は 7.4%であるが、無回答の中には夜釣りをして翌朝の 1 便で帰る人が複数含まれている。
- 地島への来訪回数（航路利用回数）は、初めては 21.0%であり、2～3 回 21.0%、何度も来ている 58.0%となっている。平均月 1 回以上来訪する人は約 20%いる。

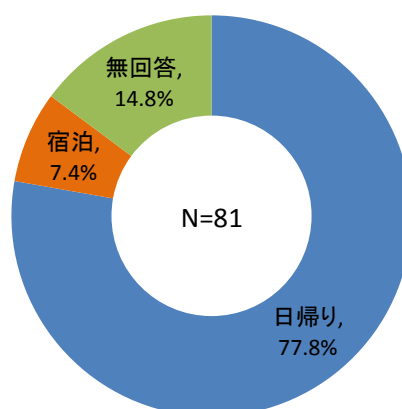
■ 地島来訪の目的



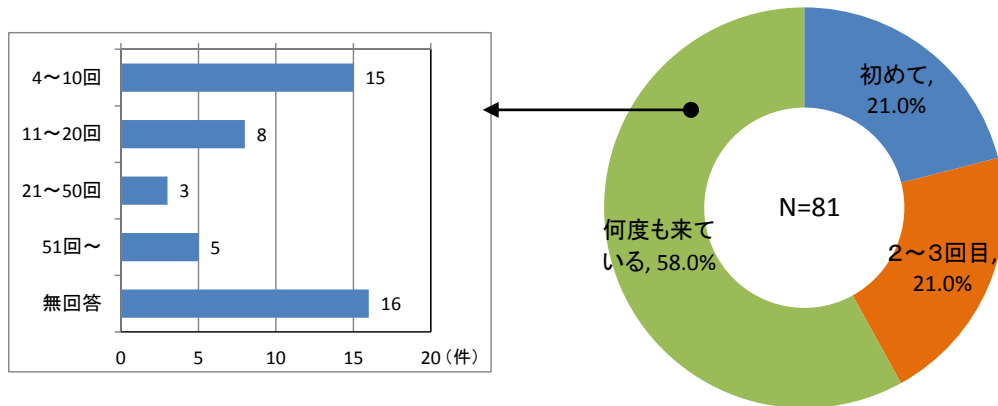
■ 同行者



■ 日帰り・宿泊の別



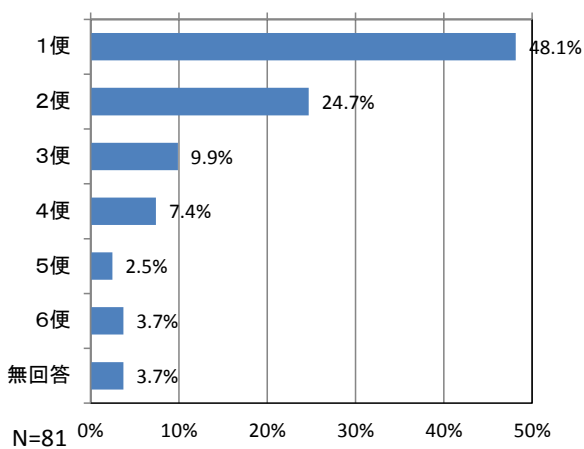
■地島への来訪回数



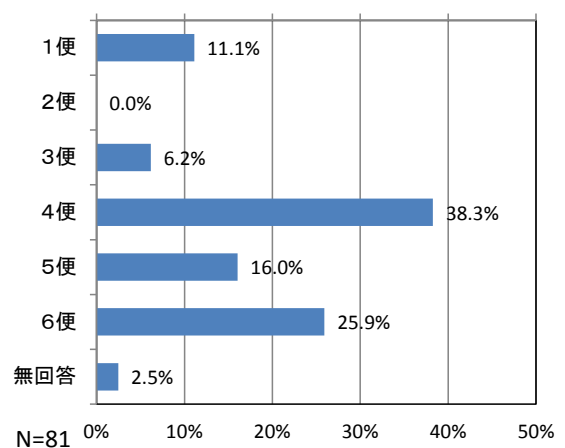
(4) 航路の利用状況

- 島外利用者が利用する便は、行きは第1便、第2便が多く、合計約73%になる。帰りは第4便が最も多く38.3%であり、第4便~第6便で約80%を占める。
- 目的別にみると、業務の行きでは、第1便55.3%、第2便23.7%とこの2便で約79%を占める。帰りは逆に、最終便の第6便44.7%、第5便28.9%とこの2便で約74%を占める。
- 釣りでは1便で行って午後の便で帰るパターンと、午後便で行って翌朝の1便で帰るパターンがある。このため、釣りの行きでは、第1便が56.5%と最も多いが、第4便~第6便も10%前後あり、この3便を合わせると約30%になる。帰りの場合も、第1便で来た人が利用する第4便が43.5%と最も多く、次いで、前日来訪の人が帰る第1便が39.1%となっている。
- 地島の利用する港については、行き・帰りとも、泊港、白浜港の両方が使われているが、利用者数は泊港の方が多い。

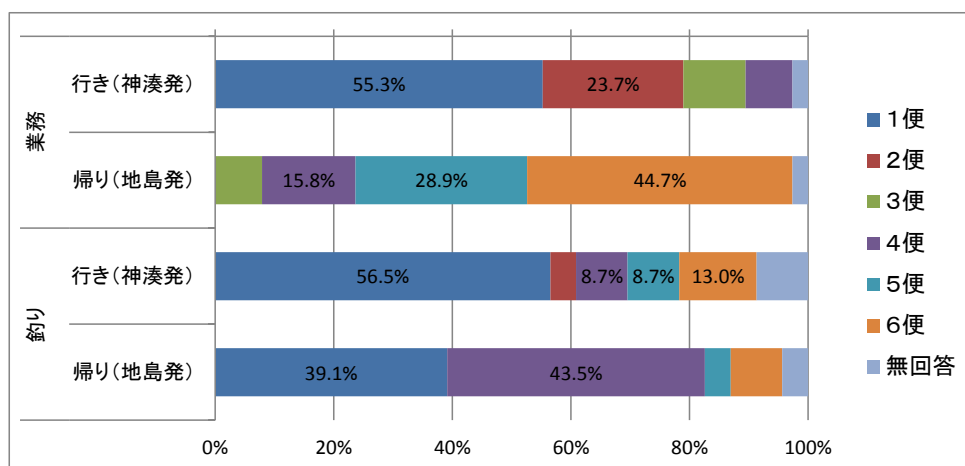
■行き（神湊港発）の利用便



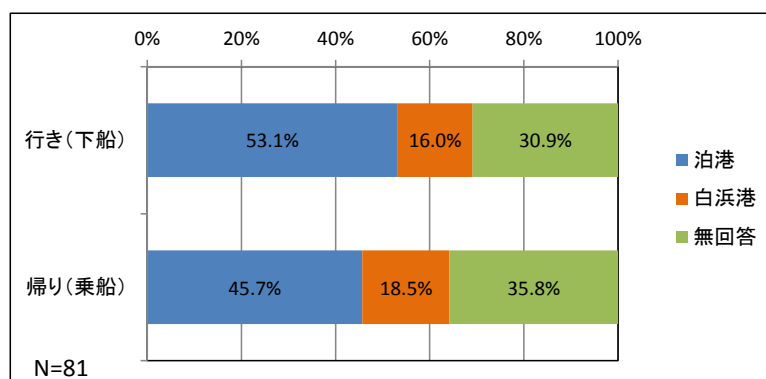
■帰り（地島の港発）の利用便



■主な来訪目的別の行き・帰りの利用便



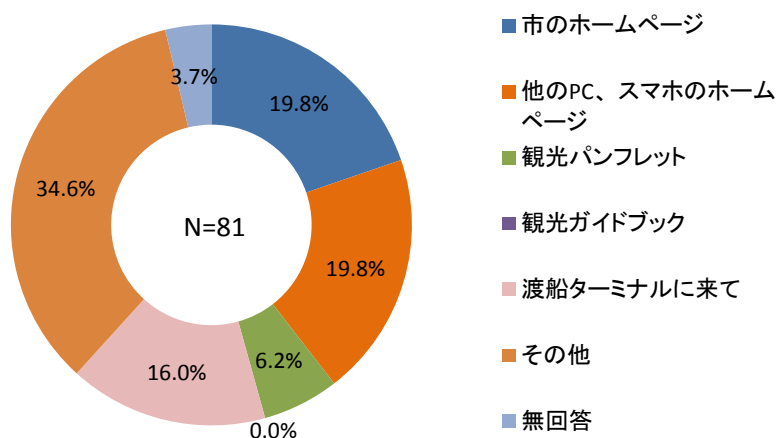
■地島の利用する港



(5) 航路情報の取得方法

○航路情報の取得方法（取得先）は、市のホームページ、他の PC・スマホのホームページがそれぞれ約 20%が多く、次いで、渡船ターミナルに来てが約 16%となっている。

■航路情報の取得方法



(6) 航路の改善してほしい点

○島外利用者からみた航路について改善してほしい点については、「特にない(今のままでよい)」が46.9%と半数近くを占めている。

○寄せられた改善してほしい点は、車両を積載できるようにしてほしい 21.0%、便数を多くしてほしい 18.5%、ダイヤを見直してほしい 16.0%となっている。そのほか釣具等の荷物置き場を増やしてほしいが6.2%となっているほかは、座席数、船内環境、乗降のしやすさ、待合所等の環境、神湊港での乗継公共交通などについてはいずれも5%未満である。

■ 航路の改善してほしい点

